千葉国際芸術祭2025

Chiba City Arts Triennale 2025

ちから、ひらく。

記者発表会

2025.06.26

本日のポイント

●第１部　　芸術祭全体の新情報

・市民参加型アートプロジェクトの祭典！すべてのプロジェクトに関わりしろ

・千葉開府900年記念！集中展示・発表期間の鑑賞料がすべて無料に

・モノレールで巡れるユニークな都市型芸術祭！ オリジナル周遊券発売

・詳細情報が詰まった新ウェブサイトがオープン！

●第２部　　参加型アートプロジェクトの魅力

・37のアートプロジェクトラインナップを改めて紹介

・6名の国内外アーティストによるメッセージ＆質疑応答

・具体的な開催拠点・エリアを紹介！

千葉開府900年記念！集中展示・発表期間の鑑賞料がすべて無料に

●「千葉国際芸術祭2025」は、千葉開府900年記念のシンボル的な事業。

●第1回目となる今年度は、千葉開府900年を記念し、すべての人を対象に「集中展示・発表期間」の鑑賞料無料で公開。

●「市民参加型芸術祭」として、市民がアートプロジェクトをより気軽に体験できる機会を創出し、アートと地域の魅力に気づき、親しんでいただくとともに、千葉国際芸術祭が今後も3年に一度開催されることへの期待を高め、開府900年のレガシーとしてより豊かな未来を実現していくための一歩となることを目指す。

●芸術祭への応援・支援を行いたい企業や個人に向けて、各種協賛・寄付を募集中。

千葉開府900年

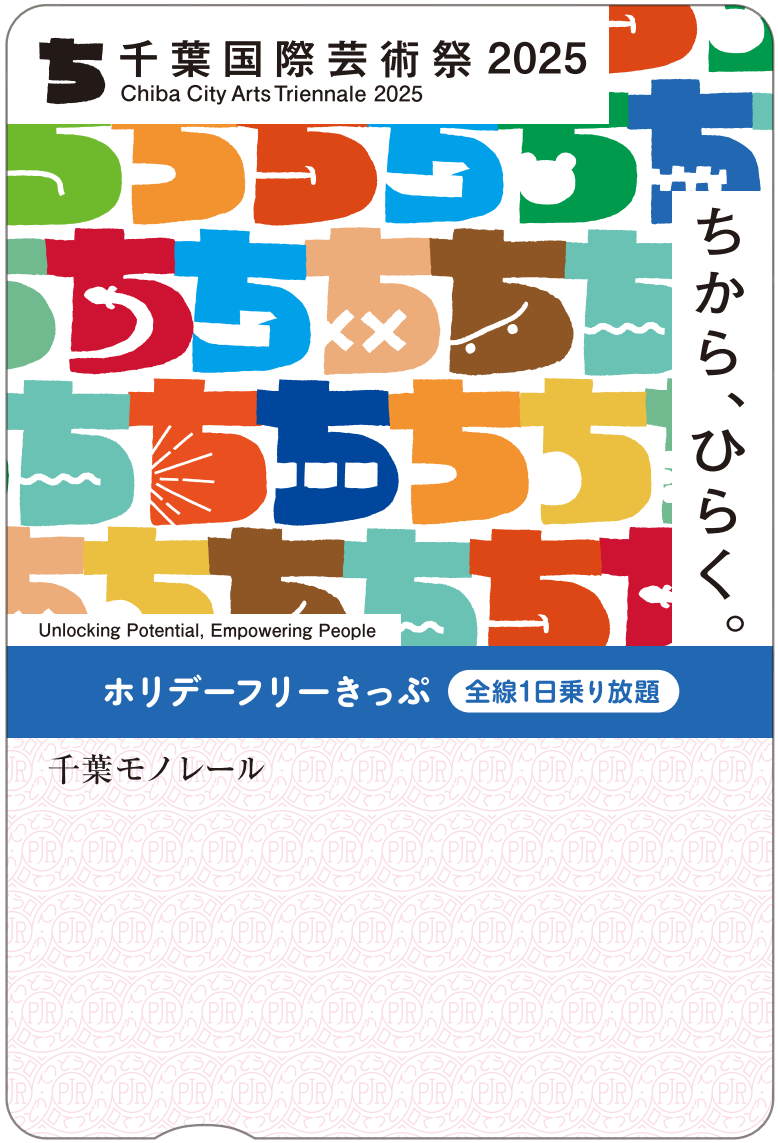
900th CHIBA CITY

千の葉に　時を刻んで　900年

【「千葉開府900年」とは】

2026年、千葉市は、まちが開かれてから900年という大きな節目を迎えます。この歴史的な節目を迎える喜びを、皆様と分かち合うとともに、千葉一族からの学びを活かしながら記念事業を行い、開府1000年をも見据えつつ、次代を担う若い世代が千葉市に誇りを持ち、より豊かな未来につなげていくために、様々な取り組みを展開しています。

モノレール全線1日乗り放題の「ホリデーフリーきっぷ」
千葉国際芸術祭2025 オリジナルデザインバージョンが発売決定！



プロジェクトの各会場を巡っていただくため、千葉都市モノレール全線で週末・祝日に一日乗り放題となる「ホリデーフリーきっぷ」の千葉国際芸術祭2025オリジナルデザインバージョンを販売予定。

フリーきっぷには、千葉市動物公園や千葉市美術館常設展、千葉市科学館、千葉ポートタワーの入園料・入館料などが割引になる特典付き。

※特典の詳細は、千葉都市モノレールのウェブサイトからご確認ください。

https://chiba-monorail.co.jp/

●販売期間：2025年8月9日（土）～2026年3月29日（日）

●販売金額：大人630円 小児320円

●販売枚数：限定5,000枚（無くなり次第販売終了）

●有効期間：切符購入日から券面記載の日付まで ご利用当日のみ有効

●販売場所：千葉都市モノレール
千葉みなと・千葉・都賀・千城台の駅窓口
※券売機で購入した場合は通常デザインとなります。

●利用可能日：券面記載の有効期間内の土・日・祝祭日
および年末年始期間・ゴールデンウィーク期間の平日

〈作品展示を予定している千葉都市モノレールの最寄り駅〉

千葉駅、市役所前駅、動物公園駅、千葉公園駅、葭川公園駅、県庁前駅

37のアートプロジェクトすべてに“関わりしろ”がある
「市民参加型アートプロジェクトの祭典」

●全32組／37本のアートプロジェクトを展開予定

●すべてのプロジェクトが「市民参加型」

●リサーチ・制作のプロセスから関わりしろがある

〈参加方法の例〉

- 材料提供
- リサーチ対象／インタビュー協力
- 制作への参加
- ワークショップ・イベントスタッフとして参加
- ワークショップへの参加
- ドネーション（寄付）
- 自身の作品・パフォーマンスの発表
- 作品鑑賞

芸術祭を盛り上げるボランティアネットワーク「ち組」メンバー募集開始！

千葉国際芸術祭2025を一緒に盛り上げるボランティアネットワーク「ち組」のメンバーを募集開始。千葉市にゆかりのある方であれば、どなたでも参加可能。

●活動内容は、作品制作の補助、ワークショップ運営サポート、集中展示・発表期間中の会場受付や案内など。

●プロジェクトチームとしてアーティストと共に活動し、プロジェクトに深く関わることもできる。

●ツアーガイドボランティアのためのインタープリター育成プログラムも実施予定！

千葉国際芸術祭2025 ボランティアネットワーク「ち組」
LINEオープンチャット

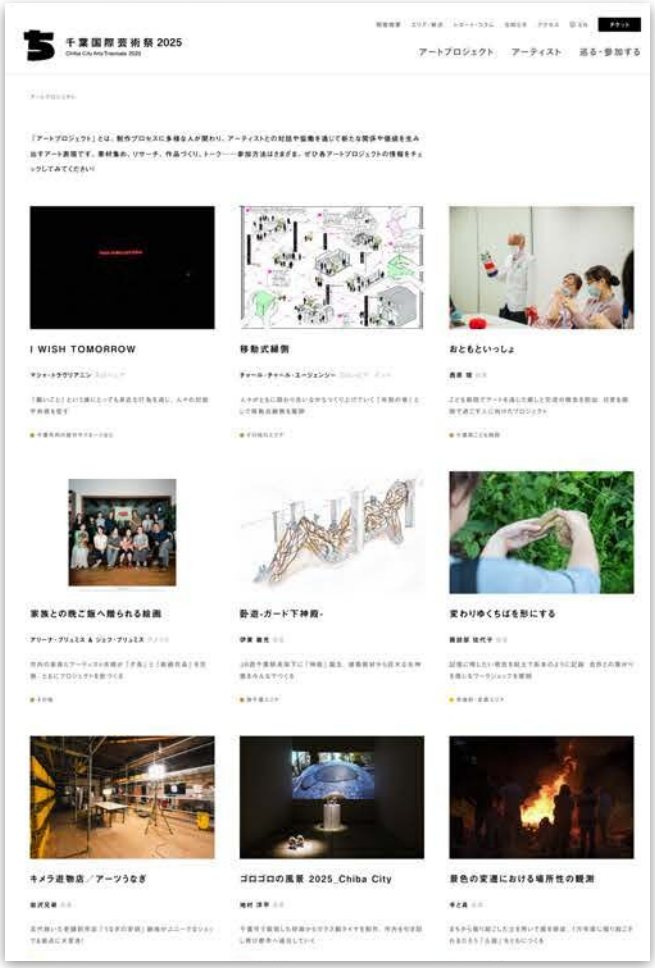
https://x.gd/gNxEg

登録者宛に活動や講座についてのご案内をお送りします。

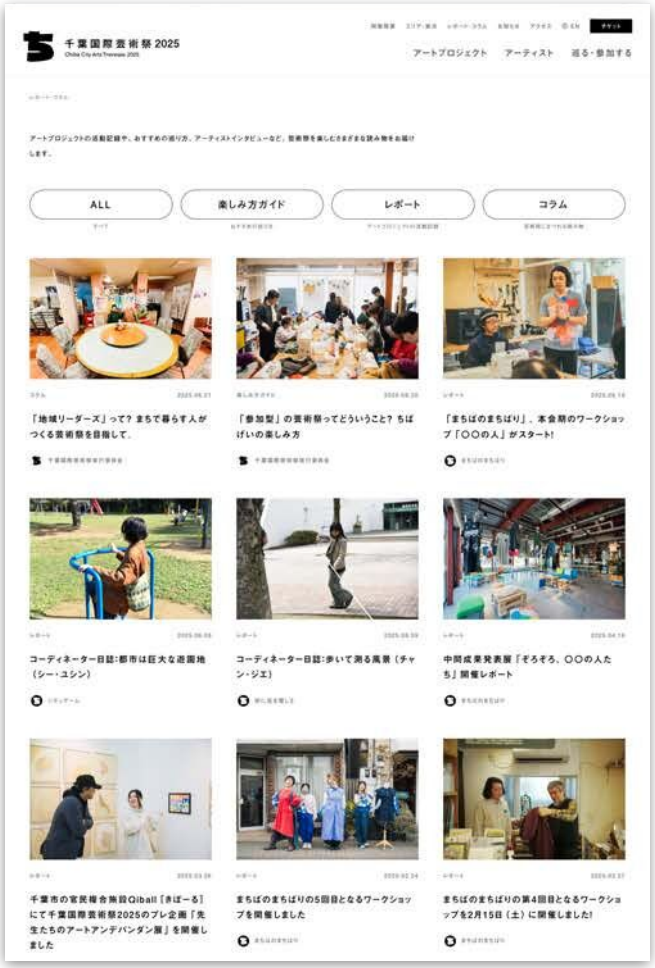
※写真は活動イメージです。

芸術祭の楽しみ方がわかる新ウェブサイト オープン！

TOPページ



37プロジェクトについての情報を知ることができる「アートプロジェクト」ページ



芸術祭の楽しみ方やプロジェクトの進捗の様子などを知ることができる「レポート・コラム」ページ

※英語サイトは7月下旬公開予定

https://artstriennale.city.chiba.jp

オリジナルグッズ「ち」缶バッジ発売！公式オンラインショップもオープン！

千葉国際芸術祭2025のオリジナルグッズ「ち」缶バッジの販売が決定。2サイズ展開。

●発売日：2025年6月26日（木）

●販売価格：1個400円

●販売場所：

①カプセルトイ（千葉市役所1階コンビニ前）

②ネット販売（公式オンラインショップ）

https://chibagei2025.base.shop

※中サイズ（写真上）57mm×57mm
　小サイズ（写真下）38mm×38mm

アーティスト・アートプロジェクト ラインナップ

※記載のエリア・アーツフィールドは変更となる場合があります。

No.	アーティスト	プロジェクト名	主な展開エリア・アーツフィールド
1	安西　剛	Giant Micro Plastic	海浜エリア／稲毛記念館、稲毛ヨットハーバーなど
2	伊東　敏光	卧遊 ―ガード下神殿―	西千葉エリア／西千葉工作室など
3	岩沢兄弟	キメラ遊物店／アーツうなぎ	市場町・亥鼻エリア／アーツうなぎ
4	上野　悠河	Tele-Interference Countepoints (in Chiba)	千葉駅周辺エリア／第一山崎ビル
5	宇治野　宗輝	House of Homy	千葉駅周辺エリア／旧診療所
6	加藤　翼	引き倒し／興し：Pull and Raise/Topple	海浜エリア／幸町団地
7	栗原　良彰	わたしの千葉市！テーマパークの模型を作ろう！	調整中
8	鈴木　のぞみ	Words of Light　光の言葉	市場町・亥鼻エリア／旧亥鼻郵便局など
9	諏訪部　佐代子	変わりゆくちばを形にする	市場町・亥鼻エリア／アーツうなぎなど
10	第二副都心	第二副都心_千葉市海浜地区プロジェクト	海浜エリア／稲毛公民館など
11	高嶺　格	脱皮的彫刻	調整中
12	地村　洋平	ゴロゴロの風景 2025_Chiba City	千葉駅周辺エリア／千葉神社（施設内の一角）など ※調整中
13	手と具	景色の変遷における場所性の観測	西千葉エリア／黒砂台空き地、HELLO GARDEN、千葉公園周辺エリア／信濃屋ビル、椿森コムナ など
14	TMPR	今昔絵有動物借景	千葉市動物公園、千葉県こども病院
15	西尾　美也	まちばのまちばり	西千葉エリア／西千葉工作室など
16	西原　珉（キュレーター）	おともといっしょ	千葉県こども病院
17	沼田　侑香	パラレルワールド	市場町・亥鼻エリア／千葉都市モノレール県庁前駅
18	檜皮　一彦	walkingpractice™ CODE_Chiba City Arts Triennale 2025（仮）	西千葉エリア
19	藤　浩志	33年後のかえる	千葉駅周辺エリア／そごう千葉店など
20	前島　悠太	対話について	千葉駅周辺エリア／第一山崎ビル、西千葉エリア／HELLO GARDEN
21	水口　理琉	皮膚を剥がす	千葉駅周辺エリア
22	宮本　はなえ	ちから、ちへ	市内福祉施設など
23	箭内　道彦	「広告」	市場町・亥鼻エリア／千葉市消防局庁舎（セーフティーちば）※調整中
24	アレクセイ・クルプニク	Secret people（秘密の人々）	千葉市内各所
25	アリーナ・ブリュミス & ジェフ・ブリュミス	家族との晩ご飯へ贈られる絵画	千葉市内各所
26	チャール・チャール・エージェンシー	移動式縁側	千葉市内各所の街角
27	グレゴリー・マース & ナヨンキム	PSYCHOBUILDING®	千葉市内各所
28	マシャ・トラヴリアニン	I WISH TOMORROW	千葉市内各所
29	シー・ユシン	シティゲーム	千葉市内各所の街角
30	サイモン・ウェッテム	Made to Malfunction in Chiba （千葉で壊れるために生まれた）	千葉駅周辺エリア／第二山崎ビル ※調整中
31	スロー・アート・コレクティブ	STATION to STATION	千葉県こども病院など
32	チャン・ジエ	街に巡る優しさ	千葉市内各所
33	天馬船プロジェクトチーム	天馬船プロジェクト	花見川、花見川団地商店街
34		タイムラグ・パーク	千葉市役所周辺エリア／国道357号上部空間 ※調整中
35		千葉市アートアンデパンダン展 ～ひらく 街とこころ	千葉市役所周辺エリア／千葉市役所ほか
36		ちくわ部	市場町・亥鼻エリア／アーツうなぎなど
37		ラーニングプログラム	市場町・亥鼻エリア／アーツうなぎなど

千葉市の魅力的な空間を舞台にプロジェクトを展開

日常の中に埋もれがちな都市の隙間や空き店舗、公共空間など、地域の魅力を備えた知られざる場所を、アーティストの視点で掘り起こし、アートプロジェクトの拠点として活用します。これらの拠点は「アーツフィールド（文化創造拠点）」と称し、特に市内6つのエリア（※）に重点的に設置します。

〈活用予定の拠点〉

千葉市動物公園

アーツうなぎ／市場町・亥鼻エリア

国道357上部空間／市役所周辺エリア

千葉大学 西千葉キャンパス／西千葉エリア

西千葉工作室／西千葉エリア

幸町団地／海浜エリア

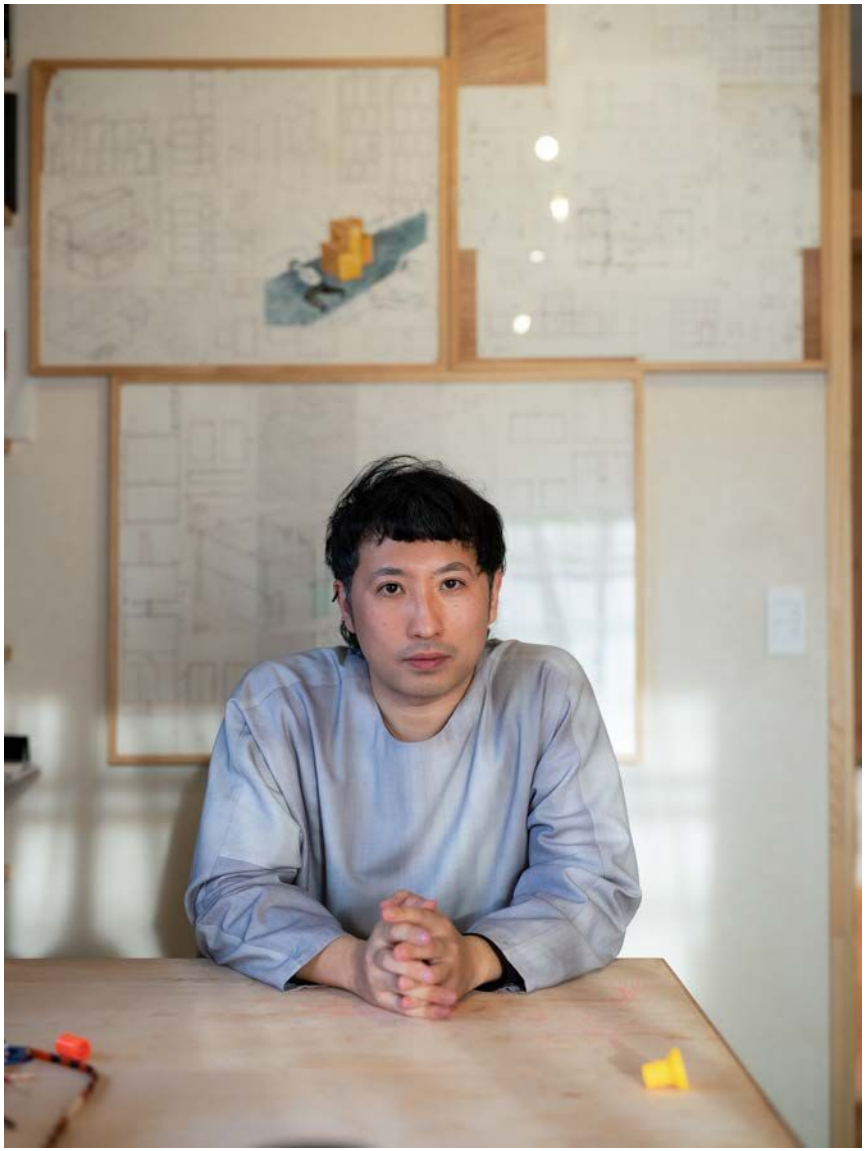
旧診療所／千葉駅周辺エリア

第二山崎ビル／千葉駅周辺エリア

※6つのエリア：千葉駅周辺エリア、市場町・亥鼻エリア、千葉市役所周辺エリア、西千葉エリア、千葉公園周辺エリア、海浜エリア

登壇アーティスト

アーティスト｜加藤 翼（Tsubasa Kato）



Profile

パフォーマンス、構造物、映像を軸に、他者との協働やグループによる共同実践を通じて活動を展開している。代表作《Pull and Raise/Topple》シリーズでは、巨大な構造物を大勢の力で動かす行為を通じて、社会的な緊張や協力のダイナミクスを可視化する。

震災後の福島、アメリカ・スタンディングロック居留地、マレーシアの無国籍コミュニティなど、複雑な歴史や政治的背景をもつ土地においてプロジェクトを実施。また、韓国と日本の間にある無人島でのパフォーマンスなどを通じ、地政学的な境界、移動、帰属といったテーマに取り組んでいる。

2017年にシアトルで始動した《Songs While Bound》シリーズ（互いに縛られたミュージシャンたちによる国歌の演奏）や、パンデミック下の香港での《Superstring Secrets》（無数の秘密が書かれた紙をシュレッダーにかけ、その紙紐で巨大な縄を編む）など、音楽や言語を媒介に国家、記憶、監視といった主題に接近し、個人と社会との関係を問い直している。

東京オペラシティ アートギャラリーでの個展をはじめ、ウォーターミル・センター（ニューヨーク）、ハンブルガー・バーンホフ現代美術館（ベルリン）、あいちトリエンナーレ2019（愛知）、ジュ・ド・ポーム国立美術館（パリ）などで、協働やアイデンティティの再構築を促すインスタレーションを国際的に発表している。

加藤 翼 「引き倒し／興し：Pull and Raise/Topple」

本プロジェクトは、千葉に点在する住宅団地を対象に、その歴史的背景や現在の住民の暮らしをフィールドワークによって丹念に読み解きながら進めているものである。調査を重ねるなかで明らかになってきたのは、住宅団地という空間が、常に「労働」と「集合」というふたつのキーワードと密接に結びついてきたという事実である。

団地に暮らす外国人労働者と、長年そこに暮らしてきた高齢者、それぞれにインタビューを行い、その言葉や身体の記憶を手がかりに構築物を設計・制作する。そして完成した構造体を団地内の広場に設置し、住民たちとともにその構造物を「引き倒し／興し（Pull and Raise/Topple）」するパフォーマンスを実施する予定である。生活リズムや言語の違い、物理的な距離によって分断されがちな人々が、ひとつの行為を共有することで生まれる一時的な共在の場。それこそが、団地という集合体が新たなかたちで再構築される瞬間になると考えている。

引き倒し／興し：Pull and Raise/Topple "Black Snake"2017
スー族スタンディングロック居留地、ノースダコタ、アメリカ

▶Point

幸町団地の夏祭りの日に
「引き倒し／興し」パフォーマンスを実施！
参加者を募集します！

※詳細は後日ウェブサイトにて公開

市民参加のかたち

インタビュー／制作参加／パフォーマンス参加／展示鑑賞

実施エリア・拠点

海浜エリア／幸町団地

スケジュール

- 5-6月：リサーチ
- 7月：住民へのインタビューと構造体の設計
- 8月：団地の広場で構造物を制作
- 8月31日（日）：団地の夏祭りの日にパフォーマンスを実施
- 9-11月：展示

●協力：独立行政法人都市再生機構、幸町団地自治会、幸町団地住民、アクティブ日本語学院、BonBon Mart

アーティスト｜栗原 良彰（Yoshiaki Kuribara）

Profile

1980年群馬県生まれ。東京藝術大学大学院博士課程修了。博士論文『《F.E.S.-Fantastic Eccentric Show-》新たな「場」作りから生まれる世界』。
アーティストは、自由の体現者であるべきだという考えを持ち、従来のアートの制度に捕らわれることなく、アートが社会に対してアクチャルに機能することを目的に活動している。特定の表現スタイルにこだわらず、彫刻や絵画、インスタレーション、ビデオ、パフォーマンス、映画、ワークショップなど、あらゆる表現方法で制作活動を行なっている。

栗原 良彰 「わたしの千葉市！テーマパークの模型を作ろう！」

千葉市内各区のアフタースクールや施設で「千葉市をテーマにしたテーマパーク」という題材で建築模型を作るワークショップを開催。子どもから大人まで、様々な人にみんなに伝えたい千葉市の名所や、自分だけが知っている景色や自慢したいものを集めて工作する。ワークショップをきっかけに、普段、生活している自分たちの場所を改めて考えることで発見があったり、他の参加者の作品を見て新たな興味が生まれたりといったことが期待できる。

ワークショップで作られた約200個の作品を一堂に集めて巨大な建築模型を制作し、展示する。それぞれが見て、考え、感じている「千葉市」が集まり、千葉市の形を作っていく。会場内にはワークショップスペースを設けるほか、千葉市のいろいろなカテゴリごとのおすすめスポット紹介コーナーや、展示会場自体をテーマパークにした鑑賞・体験スポットなどの設置も検討中。ワークショップ参加者も来場者も、みんながキャストになって、このテーマパークを作り上げていく。

▶Point

子どもたちがつくった約200個の模型が
ひとつの巨大な建築模型になり、
千葉市をテーマにしたテーマパークが誕生！

市民参加のかたち

ワークショップ参加／展示鑑賞

実施エリア・拠点

調整中

スケジュール

・7月：リサーチ
・8月：展示準備
・9月：作品制作・展示準備・ワークショップ開催（予定）
・10-11月：作品展示・ワークショップ開催（予定）

アーティスト｜鈴木 のぞみ（Nozomi Suzuki）

Profile

1983年埼玉県生まれ。2007年東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻卒業。2022年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現研究領域博士後期課程修了。主な展覧会に「The Mirror, the Window, and the Telescope」(ポーラ美術館 アトリウムギャラリー、2024年)、「Words of Light」（第一生命ギャラリー、東京、2024年）、「潜在景色」（アーツ前橋、2022年）、「メディウムとディメンション：Liminal」（柿の木荘、東京、2022年）、「MOTサテライト2018 秋 うごきだす物語」（白河二丁目町会会館/大島倉庫、東京、2018年）、「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14」（東京都写真美術館、2017年）、「NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体」（埼玉県立近代美術館、2016年）などがある。平成30年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてイギリスにて研修。主な受賞に第41回写真の町東川賞 新人作家賞（2025年）、VOCA展2016 現代美術の展望ー新しい平面の作家たちー VOCA奨励賞（2016年）など。主な出版物に「LIGHT OF OTHER DAYS」（rin art association、2022年）がある。作品は東京都写真美術館、アーツ前橋などに収蔵されている。

鈴木 のぞみ 「Words of Light　光の言葉」

私たちの暮らしには、さまざまな用途や意匠、生物の営み、あるいは欠損から穴があいている事物が存在している。日常では他の光に紛れているが、それらの穴に生じている小穴投影現象（ピンホールカメラの原理）により結ばれている光の像は、いま、ここに確かに存在する。それはまるで、光が人知れず独白を囁いているようだ。このプロジェクトでは、市民の方と協同して千葉市内の小穴投影現象が生じている穴を探索する。それらの「ピンホール」と呼ぶにはやや大きすぎる穴が映し出す光の像をフィルムや印画紙などの感光材に定着することで、私たちの身の回りのそこかしこに溢れている「光の言葉」を可視化する。
小穴投影現象により生じている光の像をさまざまな感光材に受けとめる行為とは、多様な写真言語を通して「光の言葉」を翻訳する行為であるといえるのではないか。私はここに提示されるイメージの作者ではなく、「光の言葉」の媒介者、あるいは翻訳者であれたらと思う。

▶Point

まちなかで穴を見つけて、
ピンホールカメラの原理で光の像を写す
ワークショップを開催予定！

※詳細は後日ウェブサイトにて公開

市民参加のかたち

ワークショップ参加／展示鑑賞

実施エリア・拠点

市場町・亥鼻エリア／旧亥鼻郵便局

スケジュール

・7月：作品制作・会場整備
・8月：作品制作・展示準備・ワークショップ
・9-11月：展示・ワークショップ

アーティスト｜諏訪部 佐代子（Sayoko Suwabe）

Profile

1995年千葉県生まれ。2019年東京藝術大学美術学部油画専攻卒業、2023年同大学院グローバルアートプラクティス修士課程修了。卒業制作展2017で「サロン・ド・プランタン賞」、修士卒業制作展2022で「GAP賞」を受賞。インスタレーション作品を中心に、パフォーマンスや彫刻など幅広いメディアで制作を行う。2025年現在、同大学博士課程に在籍しながらアーティストコレクティブ［実践考古学］［Primipedites］［NULLNULL STUDIO］のメンバーとしても活動する。

作品制作のプロセスは、対話と関わり、その中で起こる変化を重視している。市民の皆さんとのコミュニケーションを通じて得られる視点や、土地の記憶を感じ取る体験がインスピレーションの源である。石や土といった自然素材を用い、この場所ならではの表現を追求し、地域に新たな視点や価値を提供することを目指す。千葉市で培った経験を基盤に、この場所で創作活動を行い、過去を振り返るだけでなく、未来に向けた千葉の可能性を探る挑戦でもある。千葉市がかつて私を支えてくれたように、土地と人々とのつながりを深め、アートを通じて新たな物語を紡いでいきたいと考えている。

諏訪部 佐代子 「 変わりゆくちばを形にする」

千葉市民を対象にしたワークショップを通して、市内で過ごす日常の中にある「変わりゆく（エフェメラル）なもの」を土で形に残し、焼き締め（野焼き）によって作品化し展示する取り組み。参加者と街を歩きながら、風景や記憶に残したいものを粘土で拓本のように記録し、最終的にインスタレーションとして発表する。素材には地域の粘土を使用し、手を動かす体験から自然とのつながりを感じ、自分や他者、環境へのケアの意識を育てる。展示では、地域文化や記憶を未来に伝えるメッセージとし、過去と未来の視点から現在の暮らしを見つめ直す。市民同士の協働による作品制作を通じて、地域のつながりを生み、孤立感の緩和や文化的な誇りの醸成にもつなげることを目指す。展示場所は千葉市内の遊休空間を予定。

▶Point

街歩きで見つけた千葉の風景を
粘土に記録するワークショップを開催。
参加者募集スタート！

※詳細はウェブサイトにて発信中

市民参加のかたち

ワークショップ参加／展示鑑賞

実施エリア・拠点

市場町・亥鼻エリア／アーツうなぎ ほか

スケジュール

・7月：ワークショップ開催
・8月：野焼き
・9-11月：展示

アーティスト｜アレクセイ・クルプニク（Alexey Krupnik）［ロシア］

Profile

1990年、ロシア・モスクワ生まれ。ストリートダンスをきっかけに、創作活動を始めた。2010年代後半、ロシアでデジタル一眼レフカメラが普及しはじめた頃、映像という新たな表現手段に出会い、視覚芸術への情熱が芽生えた。この経験が、現在に至るキャリアを切り開く大きな転機となる。

現在は映画監督として、ロシア国内の広告やアニメーション、ミュージックビデオの分野で幅広く活動している。作品は、独自のスタイル、細部へのこだわり、そして感情に訴えるストーリーテリングが特徴。いまでは、ロシアでもっとも注目される広告ディレクターのひとりとして知られている。

アレクセイ・クルプニク（Alexey Krupnik）　「Secret people（秘密の人々）」

都市機能の洗練された仕組みの背後にある「人間の顔」に焦点を当てる試み。ふだん目にすることのない、都市を支える労働者や生活者の姿に目を向け、その存在を可視化する。都市の中で働く人々に密着し、彼らの日常をストリートドキュメンタリー形式で撮影・構成する写真展を行う。

観光的な視点や偶然のスナップではなく、継続性のある「シリーズ」として丁寧に構築していく点が、本企画の特徴だ。日常の風景を撮影する一過性の「観察」にとどまらず、そこからさらに踏み込み、「没入」と「記録」の両立を目指す。

都市に暮らす人々の一瞬一瞬の姿を捉えることで、「都市とは誰によって成り立っているのか」という問いを投げかけたい。私たちは日々多くの人とすれ違いながら、そのほとんどを見過ごしている。本作は、そんな「見過ごされた存在」に光を当てるものである。

▶Point

千葉市で働く人々にスポットを当てる！

見過ごされがちな日常を記録した

写真展を開催。

※詳細は後日ウェブサイトにて公開

市民参加のかたち

被写体として参加／展示鑑賞

実施エリア・拠点

市内各所

スケジュール

・6月：リサーチ、被写体候補と面会
・7月：準備期間
・8-9月：撮影、プリント、展示準備
・9-11月：展示

アーティスト｜サイモン・ウェッテム（Simon Whetham）　［イギリス］

Profile

2005年から、パフォーマンスや作曲、インスタレーション作品の中で、音を創造的に扱ってきた。音を、場所を探る手段として用いてきた。そこにある特徴的な音や隠された音を聴くには、じっくりと耳を澄ませる必要がある。そうした体験を通して、場所が持つ物理的、社会的、心理的な側面に触れることができる。
近年は、消費社会や使い捨て文化と結びついた素材の特性や質感にも関心を持ち、探究を続けている。音の力で物体を動かし、さまざまな素材を通して音を響かせたり、変化させたりする。また、天候や故障した機器など、予測できないアナログの仕組みをあえて取り入れ、自分だけでは制御できない環境や偶然との協働を楽しんでいる。
すでに使われなくなった技術にも焦点を当て、その再利用や活用の可能性を探るとともに、なぜ廃れてしまったのか、どんな資源が使われていたのか、そしてリサイクルにまつわる希望や文化的な意味についても考察を深めている。
こうした実践は、滞在制作やワークショップの開催、パフォーマンスや展示を通じて展開している。とくに、芸術に触れる機会が限られている人々と関わることに大きな喜びを感じている。そのプロセスの中で生まれる文化的交流こそが、自身にとっても大きな学びと成長につながっている。

サイモン・ウェッテム（Simon Whetham）　「Made to Malfunction in Chiba」

このプロジェクトは、不要と見なされたモノを再利用し、異なる文脈に置くことで、それらが別の目的を果たし、創造的な作品の一部として新たな価値を取り戻す可能性を示している。

時代遅れの製品の中に見出される価値や魅力を可視化すること。また、家電製品を手放す際にどのような選択肢があるのか、それらが本来の設計意図とは異なる使い方をされたとき、私たちの体験がどのように変化するのかについて考察することが、本プロジェクトの柱となっている。

まずは千葉市民に中古小型家電の提供を呼びかけることから始める。提供されたモノたちは、作品の一部として「第二の人生」を与えられることになる。滞在制作の後半には制作プロセスを公開し、関心のある市民はその様子を見学するだけでなく、実際に制作に関わることもできる。

▶Point

市民から中古小型家電の提供を募集中！

集まった家電は、作品の一部として

「第二の人生」を与えられる。

※詳細はウェブサイトにて発信中

市民参加のかたち

材料提供／制作参加／展示鑑賞

実施エリア・拠点

第二山崎ビル

スケジュール

・6月：中古小型家電収集、作品制作
・7月：プロジェクトの進捗共有、中古家電追加収集、作品制作
・8月：展示準備
・9-11月：展示

「千葉国際芸術祭2025」の楽しみ方と見どころ

・アーティストと交流しながら作品制作にも関われる！

・千葉市のさまざまな場所を周遊しながらアートに触れられる！

・アートを通して新しいひと・こと・ものに出会える！

提供　千葉都市モノレール株式会社

参加募集プロジェクト（今後も続々追加予定！詳しくは公式ウェブサイトにて）

〈申込み期間〉

サイモン・ウェッテム 「Made to Malfunction in Chiba」中古小型家電募集 …… ◉ 6月15日（日）～ 7月14日（月）

アートアンデパンダン展 出品募集 …… ◉ 6月26日（木）～ 7月31日（木）

天馬船プロジェクト ドネーション募集 …… ◉ 6月26日（木）～ 11月2日（日）

アリーナ・ブリュミス & ジェフ・ブリュミス 「家族との晩ご飯へ贈られる絵画」 参加者募集 …… ◉ 7月1日（火）～ 7月31日（木）

前島悠太 「対話について」ワークショップ …… ◉ 6月26日（木）～ 各開催日の3日前
◉ 7月12日（土）、13日（日）、19日（土）開催／ 第一山崎ビル 屋上

諏訪部佐代子 「いまあるちばの形を伝えてみよう！」ワークショップ …… ◉ 6月26日（木）～ 各開催日の3日前
◉ 7月13日（日） 、20 日（日）、21日（月・祝）開催／ アーツうなぎ

手と具「穴掘りワークショップ」 …… ◉ 6月26日（木）～ 各開催日の3日前
◉ 7月26日（土）、27日（日）、8月16日（土）、17日（日）開催／黒砂台空き地

安西剛 「マイクロプラスチックで万華鏡を作ろう！」ワークショップ …… ◉ 6月26日（木）～ 7月21 日（月）
◉ 7月27 日（日）開催／ 稲毛ヨットハーバー

伊東敏光 「“ガード下神殿に願う” 風鈴短冊づくりと奉納」ワークショップ …… ◉ 7月11日（金）～ 8月4日（月）
◉ 8月11日（月・祝）開催／ 西千葉工作室

加藤翼 「引き倒し／興し：Pull and Raise/Topple」パフォーマンス …… ※ 詳細は、後日ウェブサイトにて詳細発表予定です。
◉ 8月31日（日）開催／幸町団地

今後の予定

●会期

2025年4月～12月

- ◉ まちなかリサーチ・制作：2025年4月～9月中旬
- ◉ 集中展示・発表：2025年9月19日（金）～11月24日（月・振休）
- ◉ 振り返り：2025年12月

※どの期間でも市民が参加できるプログラム等を実施。

・リサーチや制作への参加募集について新ウェブサイトで順次告知スタート

・8月上旬～中旬：集中展示・発表期間の詳細情報を公開予定

・9月16~18日：特別内覧会を実施予定

・12月：参加型で芸術祭を振り返るトークイベントを実施予定

お問い合わせ

千葉国際芸術祭実行委員会事務局（千葉市市民局生活文化スポーツ部文化振興課内）

〒260-8722 千葉県千葉市中央区千葉港1-1
TEL：043-245-5961　　E-MAIL：chiba-city-triennale@city.chiba.lg.jp

●公式ウェブサイト：https://artstriennale.city.chiba.jp

●公式LINE：千葉国際芸術祭2025

●Instagram：@chibacity_art_triennale2025

●X：@ccat_2025

●Facebook: 千葉国際芸術祭2025

ウェブサイト

Instagram

X

Facebook

公式LINE